

フェローシップ・ニュース NO.27

マイアミのドラッグ・コート ロジネック判事が初来日！！

事務局長 尾田真言

龍谷大学矯正・保護研究センター主催の「薬物依存症への新たな挑戦～日本版ドラッグ・コートの可能性」と題する国際シンポジウムが、アパリの協賛により2日間開催されます。

この国際シンポジウムにおいては、最初の2時間、ジェフリー・ロジネック(Jeffrey Rosinek)判事に基調講演をしていただき、その後、龍谷大学矯正・保護研究センター研究員4名(うち3名はアパリの理事および研究員)が「日本版ドラッグ・コートの可能性」について、次のような問題提起をする予定です。最初に丸山氏(龍谷大学)から、日本の薬物犯罪取締りの状況報告と問題点の指摘。私からは、アパリの活動の紹介を通じて、現行法の枠内において、薬物事犯者をどのように薬物依存症治療へ繋げることができるのかという報告。嶋根研究員からは、ドラッグ・コートが果たして有効に機能しているのかどうかについて、アメリカの評価研究を報告します。最後に理事の石塚から、日本版ドラッグ・コートの提案がなされる予定です。

「ダメ。ゼッタイ。」運動に象徴される、わが国の厳罰主義の薬物対策はアメリカに比べてきわめてうまくいっています。その反面、薬物依存症治療の観点からの再発予防対策が立ち遅れています。そこで薬物依存症者に対する再発予防プログラムを刑事司法制度に導入しているアメリカのドラッグ・コート制度に関心を持ちました。通常、薬物依存症者自身には病識がないためにトリートメント・プログラムへ自発的に参加することが期待できません。そこで参加への義務付けが必要となるのです。ドラッグ・コートではさまざまな手法を用いて、薬物乱用者に再犯防止プログラムを義務付けています。

マイアミで世界で初めてドラッグ・コートができたのは1989年でした。ロジネック判事はマイアミ・ドラッグ・コートの2代目の判事として、1999年から10年間ドラッグ・コート判事のポストについています。今回、私たちはロジネック判事に対して事前に、次の6点の質問をしてあります。

マイアミではどのような経緯でドラッグ・コートが創設されたのか。

ドラッグ・コートが創設される以前の刑事司法手続では、自己使用目的の薬物所持事犯者に対してどのような手続でどのような刑罰が科せられていたのか。初犯者、2犯者、3犯以上について、サンクションの種類、期間等、教えてください。

ドラッグ・コートではどのような手続が行われているのか。

薬物依存症回復プログラムをどのように開発しているのか? どのようにして治療機関と契約しているのか。

尿検査で陽性反応が出た場合の対応について具体的に教えてください。

ドラッグ・コートでは、薬物犯罪だけでなく、薬物関連犯罪(drug related crime)についても扱っていると思いますが、その法的根拠をお教えてください。

講演では、これらの質問に対する回答もなされる予定ですが、さらに、マイアミドラッグ・コートを紹介する迫力満点の3分間ほどのビデオも上映されます。ビデオでは、ロジネック判事がクライアントと真剣に向き合っている様子が見られます。

ドラッグ・コート制度に御関心のある方は、皆様お誘いあわせの上ご参加ください。



《東京ワークショップ》日時：3/8(土)13:00～17:30

場所：順天堂大学本郷キャンパス10号館1階カンファレンスルーム

《京都シンポジウム》日時：3/10(月)13:00～17:30

場所：龍谷大学深草学舎3号館201号教室

参加費は無料です

特定非営利活動法人
アジア太平洋地域アディクション研究所

発行日
2008年3月1日

APARIとは、アジア太平洋地域アディクション研究所(Asia-Pacific Addiction Research Institute)の略称です。

全国のDARCやMACの各施設、福祉・教育・医療・司法関係者と連携しながら、依存症から回復しようとする方々を支援しているシンクタンクです。

目次：

マイアミのドラッグ・コート ロジネック判事が初来日!!...尾田	1
ギャンブル・司法サポート開始!	2
薬物依存症と家族の対応について(4)...町田	3
嶋根研究員医学博士に!...嶋根	4 5
入寮者からのメッセージ...ジーク	6
藤岡ニュース!...施設長 山本大	7
アパリからのお知らせ	8

逮捕からリハビリへ

ギャンブル・司法サポート開始！

--ギャンブル依存症が原因とみられる被告人への回復プログラムの提供--

アパリではギャンブルにのめり込み、道徳心が麻痺した結果、事件にまで発展した人に対する裁判支援を始めることになりました。横領や窃盗などの事件の陰にはギャンブルの問題が関係していることも多いのではと思います。サラリーマンや、公務員などがギャンブルが原因で多重債務に陥り、これらの犯罪に手を染めたというニュースは日常茶飯事に耳にするようになりました。

このようなギャンブルが原因で逮捕された被疑者・被告人に対して、病的ギャンブラーの回復施設である「ワンダーポート」と協働のもと、裁判の過程の中で依存症回復への道筋をつけることを業務として行うことになりました。

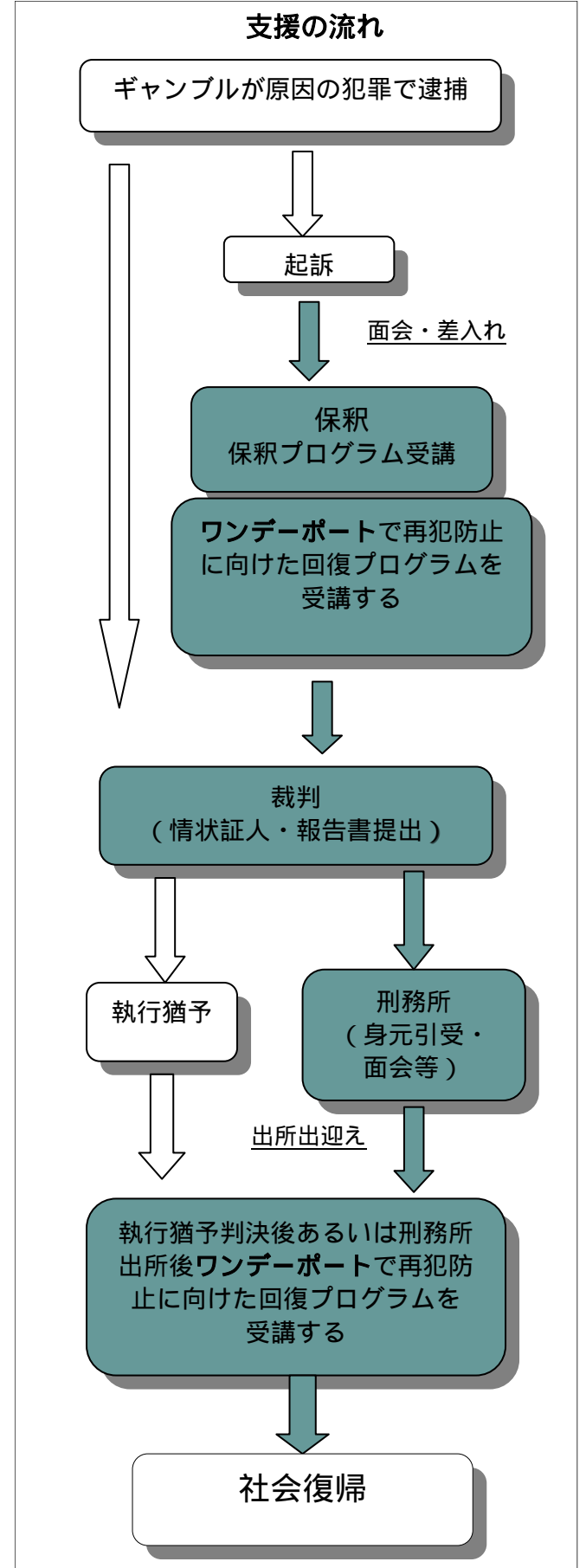
刑事司法手続のいかなる段階にいるギャンブルの問題を抱えた人に対しても、ワンダーポートのスタッフと協働して援助の手を差し伸べます。

警察による逮捕 検察官の起訴（保釈） 裁判 刑務所 出所という一連の刑事司法手続にのっている病的ギャンブラーに対して、具体的に以下のことを行っています。

- 1 保釈プログラム：まずスタッフが面会をして本人の意思（回復プログラムを受ける）を確認します。そして保釈が許可された場合は、その間ワンダーポートに入寮してプログラムを受けてもらい、その進捗状況を報告書として裁判所に提出します。また情状証人に立ち、本人がギャンブルの問題から回復したいという意思があること、その支援をすることを証言します。それらを裁判で評価してもらえれば刑が軽くなることもあります。
- 2 受刑中の身元引受：刑務所に入っている間、ワンダーポートの施設長が身元引受人になることによって、仮釈放で出たその日からワンダーポートに入寮し、回復プログラムを受けてもらいます。

逮捕されたことをきっかけとして、また裁判を利用して、ギャンブルの問題から回復させたいと思った方はぜひお問い合わせ下さい。

1 多くの場合、本人は「ギャンブルはそれほどやっていない」「逮捕までされたのだからもう二度とやらないだろう」といように、ギャンブルの問題を認めません。したがって、本人がワンダーポートのプログラムを(嫌々でも)受けることを望むためには、ご家族の理解と伝え方が重要になります。本プログラムを家族が希望される場合、本人への働きかけをする前にご相談ください。



ご家族の方には家族セミナーや家族教室、自助グループへ参加していただき、このギャンブル依存症について学んでいただきます。弁護士との裁判打ち合わせにも同席し、支援していきます。

【費用】コーディネート料20万円（遠方の場合は別途交通費が必要。リハビリ施設「ワンダーポート」入寮は毎月約16万5千円必要）

【お問い合わせ】アパリ東京本部 03-5830-1790



絶賛発売中！！

アパリ理事・石塚、尾田、嶋根が執筆しています。本書は、従来刑罰しかなかった薬物事犯者対策に薬物依存症治療を導入したドラッグ・コート制度を日本でも創設しようと提案する日本で初めての書物です。「日本版ドラッグ・コート」
 定価：2,625円（税込）
 発行：日本評論社
 最寄りの書店でお買い求めください！

家族のための連続講座

薬物依存症と家族の対応について(4)「回復に必要なもの」

カウンセラー 町田政明

(1) 回復施設の役割

施設では強制的にミーティングに出席するというプログラムです。すると仲間の力もありだんだん自分の病気を受け入れていくようになります。依存症本人が薬物を止めたいと思えば施設に入る例はあまりありません。家族に言われて、裁判所で執行猶予をもらい、行く所がなくイヤイヤ入るケースがほとんどです。また、自助グループと違い、いろいろな問題を職員に相談することができ、職員も問題を感じたら本人と面接して問題の解決を図ることが出来ます。また職員自身が依存症からの回復者なので回復のモデルになります。

(2) 自助グループの役割

自助グループに行く行かないは本人の自由です。行き始めると、同じ薬の問題を持った人と出会うようになり、自分だけでないとホッとします。誰にも言わなかったことも仲間には少しずつ語ることができるようになり、安心と安全を感じて自分の居場所と思えるようになります。先行く仲間をみて自分もあのようになりたいとか、新しい人を見て初心を忘れないという自分の原点に帰ることが出来ます。また、スリップした仲間を見ることでこの病気の怖さを知り、いろいろな仲間が鏡となって回復の力となります。このような安心できる仲間とプログラムで、正直に自分を語る事が出来て、その過程でいろいろな気づきがあります。その気づきが自分を変えることになり、回復へと繋がっていきます。

(3) 病院の役割

病院はいろいろありますが、大きく三つに分かれます。一つ目は依存症の正しい知識がない一般の内科や精神科病院、二つ目はある程度依存症のことは知っているが、薬物依存の治療をしていない病院、三つ目は薬物依存症の治療を専門的に実施している病院です。

また、専門に治療する病院でも一般の精神疾患の患者と混合して治療している病院がほとんどで、依存症を専門にしている病院はとても少ないです。薬物依存を扱うのが少ない理由は、違法である薬物を使用していることが多いこと、また薬物依存症の本人は薬を止めていても非常に扱いづらく、反抗的で反社会的であり、また非常に過敏な状態が続き、回りの人たちを巻き込んで行くので病院や社会が関わりたくないと思う人が多いからです。

さらに本人が薬物のことを隠して病院にかかる場合もあるので、薬物の問題にたどり着けないケースも有ります。家族は、依存症の正しい知識がない医者に診てもらったため、駄目な人間だとか育て方が悪かったなどと言われ、傷つけられることもあります。

一度の診断であきらめないで、地域の精神保健福祉センターなどに相談して欲しいと思います。

解毒 病院の大きな役割の一つに解毒があります。解毒をどこでやるかによっては回復に繋がらない場合があります。薬物依存症についての知識がない一般病院では、薬物依存症の治療をしている精神科病院と連携はしていません。その為解毒後、そのまま退院させられ薬物の治療は何らされず同じような繰り返しになります。薬物依存症を知らない病院に入院した場合は、担当医に今までの経過を相談して、時間をおかずそのまま転院されると良いと思います。

教育 薬物依存症本人は自分を病気と認めない病気ですから、教育は大変大事なものです。医師、看護師、ソーシャルワーカーなど多くのスタッフが関わり、病気について教育しますが、中でも大きな役割をするのが自助グループの存在です。援助者は自助グループの存在と必要性を教育するだけではなく、本人が実際に自助グループの人と接したり、ミーティングに参加することが大きな効果を生みます。依存症の専門病院では入院中から本人に自助グループへ行ってもらったり、自助グループの人に来てもらいメッセージやミーティングをしています。これらのことが自助グループに繋がるための準備として、大いに役立っています。

(4) 連携

薬物依存の問題は児童、女性、暴力、借金、犯罪など多岐に渡っており、病院や施設だけではなく、児童相談所、女性相談所、シェルター、弁護士、警察、精神保健福祉センター、保健所などと連携して本人の回復を手助けしていかないとはいけません。特に今回取り上げた病院は、社会との連携なくしては回復していきませんので、回復施設や自助グループと連携して本人の治療に当たることが必要だと思います。

家族も自分の思い込みだけで対応せず、勇気を持って関係機関へ相談して、本人の治療をサポートする必要があります。このように本人の回復はあらゆる関係機関とネットワークを組んで、長い時間と多くの人の援助により、本人の治療にあたる必要があります。

また、関係機関のネットワークだけではなく、家族との連携は非常に大切な問題です。本人の回復のためにも家族が学ぶことはとても重要になります。

家族の体験記 好評発売中！！

ギャンブル依存症に悩む
家族の物語
～絶望から希望へ～

この本には、ギャンブル依存症で悩む8人の家族の体験が綴られています。これは真実の物語です。家族の貴重な体験を知ることができる貴重な一冊です。

定価：1,000円
発行：ホープヒル
(アパリで販売中)

嶋根研究員 医学博士に！

研究員 嶋根卓也



嶋根卓也研究員

みなさん、こんにちは。今年度、大学院を修了し、学位（医学博士号）が授与されることになりました。修士時代から数えると、薬物乱用・依存分野の研究を始めて6年が経過しました。自分の研究テーマと向き合うプロセスこそ、研究者にとって一番大切なことだと、修士時代の恩師に教えられてきました。研究のテーマというのは、人から与えられたり、天から降ってきたりするものではなく、自分の足で歩き、自分の鼻で匂いを嗅ぎ、自分の耳で小さな声を聞き分けながら、見つけていくものだと思っています。薬物乱用・依存を研究テーマに選んだ私は、アパリやダルクの皆様をはじめ、薬物分野の関係者に支えられながら、研究を続けることができました。これからも研究を通じて、薬物乱用防止活動や薬物依存症者の回復支援を縁の下で支えるような仕事をしていきたいと思えます。今回は、博士論文として提出いたしました研究の一部をフェローシップニュースでご紹介させていただきます。

定時制高校生における飲酒・喫煙・薬物乱用の実態について

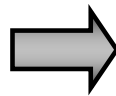
青少年への薬物乱用の拡大は、第3次覚せい剤乱用期の特徴の一つであることは、皆さんもご存知の通りです。青少年における薬物乱用には、図1のような特徴があり、なかなか表面化しにくい現状です。青少年の薬物乱用の実態把握を目指したこの研究では、定時制課程の高校生が主人公です。定時制の高校生というと、昼間仕事しながら、夜間に勉強するような勤労青少年をイメージされる方も多いのではないのでしょうか。しかし、図2に示したように、定時制高校の生徒層は近年大きく変化しています。つまり、現在の定時制には、中学校時代に不登校を経験している生徒や、全日制課程からドロップアウトした生徒が多数を占めるようになりました。さらに、こうした生徒の中には、イジメや引きこもりを経験している生徒、親との関係性が良好ではない生徒、摂食障害・自傷行為などメンタルヘルスに問題を抱える生徒も少なくありません。

図1

青少年における薬物乱用の特徴

- “オシャレに。手軽に。”がキーワード
 - 俗称(ストリート・ネーム)でのやり取り(特にクラブなどで)
- 覚せい剤 エス・スピード、MDMA エクスタシー・バツ、コカイン コーク
 - あぶり(加熱吸煙)の流行
 - 覚せい剤の結晶を火であぶり、気化した煙を吸引する(注射痕が残らない。注射器を必要としない)
- インターネットや携帯電話による取引
 - 匿名の掲示板での取引、通信販売などお互い顔の見えない取引

既存統計を元に薬物乱用像を推測【氷山の一角】
・検挙者数(司法統計)
・患者数(病院統計)



一般人口における実態把握が必要
・全国中学生調査(1996年より隔年)
・全国高校生調査(2004年)
・全国住民調査(1995年より隔年)
生徒本人を対象とする疫学調査が開始

図2

定時制高校の現状

定時制課程: 学校教育法制定時(昭和23年)から設けられている制度
創設された趣旨「中学校を卒業して業務に従事するなどの理由で全日制の高等学校に進めない青少年に対し、高等学校教育を受ける機会を与えるため」文部省(当時)

勤労青少年

正規雇用者は全体の1割未満まで減少(東京都、平成13年度)

不登校経験者
全日制課程ドロップアウト
社会人生徒

定時制高校の生徒層は大きく変化している

多くの問題を抱える生徒が増えてきた
薬物乱用の問題は？

現場の教員へのヒアリングより
「多くが不登校経験者」
「いじめ経験者も多い」
「喫煙・飲酒の問題は日常茶飯事」
「家に居場所がなく、授業開始前から学校に来る子もいる」
「摂食障害、自傷行為経験者もいる」

図3,4は、飲酒と喫煙の実態を示したものです。紙面の都合で、詳細は省きますが、定時制高校生は、かなり早い時期から酒やタバコと関わっていることが伺えます。75%以上の生徒は飲酒経験があるのですが、飲酒経験者の約4人に1人は、既にブラック・アウト（飲酒による意識や記憶の消失）を経験しているという結果は、大変気になります。また、喫煙については、既にニコチン依存が形成されていると疑われる生徒も少なくありません。こうした低年齢での飲酒や喫煙が、薬物乱用の入り口になっているとされています。

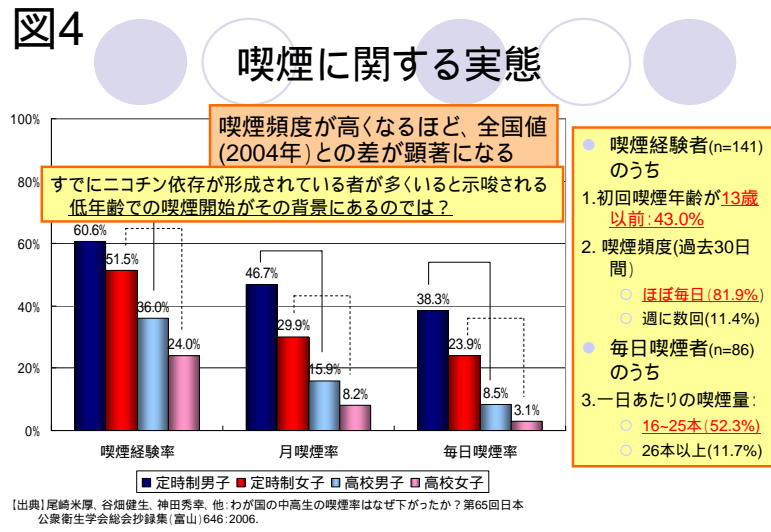
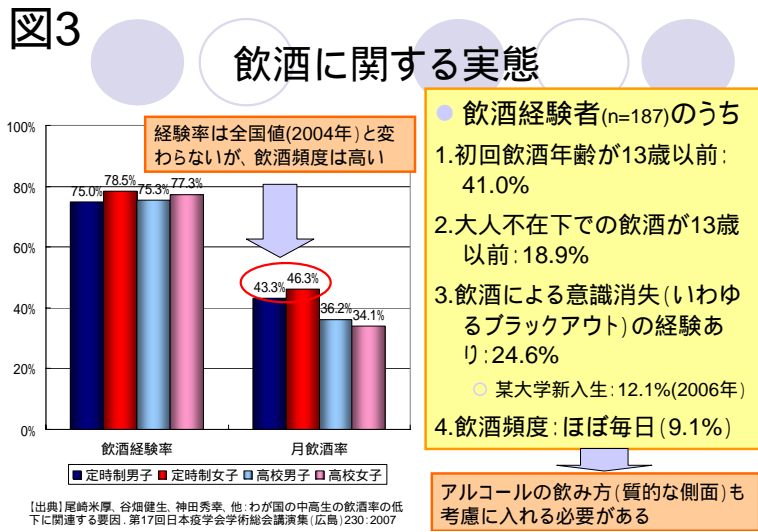


図5は、薬物乱用に関する実態です。定時制高校生の間では、有機溶剤（シンナー）、大麻、ガスの3つが主要な乱用薬物として挙げられました。青少年の薬物乱用という点、有機溶剤がこれまで中心的な存在でしたが、有機溶剤の乱用者数は年々減少しているようです。それに変わり、乱用が危惧されているのが大麻であり、この調査結果は、近年の大麻流行を裏付けるデータであると考えています。

図6は、国内外の青少年の薬物乱用経験率を比較したものです。欧米の青少年では、30～50%が何らかの薬物を使用した経験を持っている一方で、日本の子どもたちの乱用経験率は1%程度と、著しく低い状態を維持していると考えられてきました。しかし、今回の結果は、それを大きく上回る結果でした。全体の8.6%、つまり12～13人に1人の割合で、何らかの薬物乱用経験を持っていることになります。

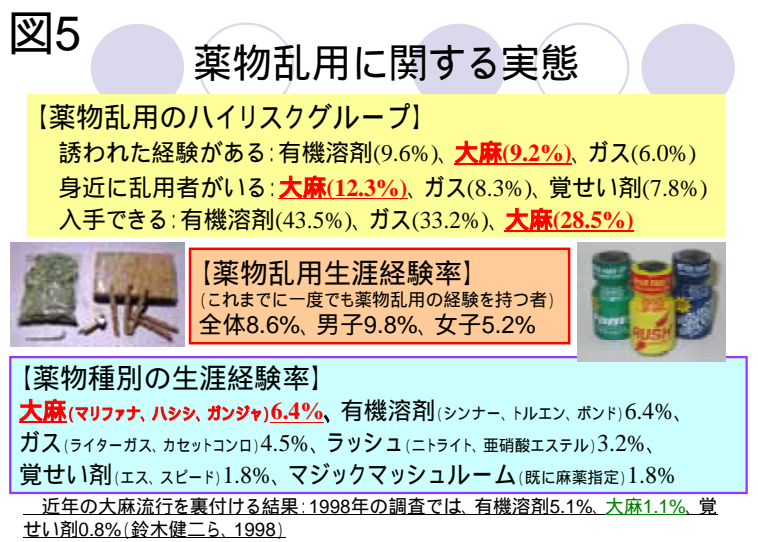


図6 表.青少年の薬物乱用経験率

対象集団	主たる年齢	Lifetime prevalence(%)
定時制高校生(2006)	15～19歳	8.6%
定時制高校-男子	15～19歳	9.8%
定時制高校-女子	15～19歳	5.2%
大学生(2006)	18～20代前半	1.9%
大学-男子	18～20代前半	2.3%
大学-女子	18～20代前半	1.6%
高校-男子(2004)	15～18歳	1.9%
高校-女子	15～18歳	0.8%
中学生(2006)	12～15歳	1.2%
中学-男子	12～15歳	1.4%
中学-女子	12～15歳	0.9%
米国(2006)	中学2年相当	29.2%
米国(2006)	高校3年相当	51.2%
フランス(2003)	平均15.8歳	38.0%
ドイツ(2003)	平均15.7歳	30.0%
オランダ(2003)	平均15.7歳	29.0%
英国(2003)	平均15.8歳	38.0%

このような学校では、従来の『ダメ。ゼッタイ。』教育だけでは、とても十分とは言えません。『薬物乱用は危険!』と生徒を怖がらせることは簡単ですが、それだけではやはり不十分です。薬物乱用の先には、薬物依存があり、そこからの回復がいかに困難かと理解させることで、薬物乱用を予防していくことが効果的だと思います。調査校の先生からは、ダルクスタッフによる教育講演が大変好評だったという話も伺いました。さらには、薬物と関わりを持った生徒を早期に発見し、早期に介入する取り組みが必要です。地域にある精神保健福祉センターや保健所などの相談窓口を活用し、早い段階で薬物乱用・依存の専門家と出会うことが、重症化を防ぐこととなります。同時に、子どもたちを支える保護者や教職員に対する薬物乱用・依存教育も必要です。

学位論文: 定時制高校生における飲酒・喫煙・薬物乱用の実態について(日本アルコール・薬物医学会雑誌, 42(3): 152-164, 2007) 嶋根卓也、和田清、共著

プロフィール: 嶋根卓也(しまねたくや)
 昭和49年埼玉県生まれ
 平成10年: 東京薬科大学薬学部卒業
 平成16年: 国立保健医療科学院専門課程修了(公衆衛生学修士号)
 平成20年3月: 順天堂大学大学院医学研究科修了予定(医学博士号取得見込)
 平成17年4月～現在: アパリ非常勤研究員
 平成18年4月～現在: 国立精神・神経センター精神保健研究所薬物依存研究部協力研究員

アパリ発行
「Born・Again (ボーン・アゲイン)」
体験談 販売中!

2005年5月に第2版が発売になりました。体験談が13人分収められています。アパリではこの本を拘留所や刑務所にいる人への差し入れ用として使っています。

定価: 1,500円
(会員価格: 1,000円)

お申込はメールかファックスで
 FAX: 03-5830-1791
 メール: info@apari.jp
 ご住所、お名前、お電話番号をご記入の上お申込下さい。

アウェイクニングハウス 入寮者からのメッセージ

「今を感じる」

ジーク

私が薬を使用するに至るきっかけは、一般的によく言われる好奇心と自分の中に今もある探究心によるものだったと思います。子供の頃から自分の周りにある物全てが<何を訴えているのだろう><何を伝えようとしているのだろう>という疑問を持ち続け、芸術を志す兄や母の影響もあり、私もその道を歩むことにしたのです。

歴史を作り上げた芸術家たちが、それぞれの時代に何をみつめ何を感じたかを同調し、追体験したいが為に薬を使用したのです。その時それまで感じていた自分の枠をはるかに超える世界中の人々の中にもうごめく思いを感じたような気がしました。

東京の夜の街はその当時グローバルとかボーダーレスという流れが主流で、他の国で考えられないであろう人種的、経済的差別の比較的少ない文化の融合が繰り広げられ、音楽、ファッション、コミュニケーション、多くの分野で時代を造り上げるに至ったのです。またそれらのエネルギー（ONE LOVE）は全体愛を常に前面に押し出し、社会的貢献を生み出しました。その中にはアパルトヘイト、エイズ、ハリケーン、震災救済など社会問題に即座に対応する動きがあったのです。そんな流れに参加することが出来、文化が社会を少しだけ良い方向に変えていく瞬間に立ち会う事ができたことは、自分にとってとても大きな喜びであり、またエネルギーともなりました。

しかし、私は大きな間違いをしました。薬は自分を前に押し出し、表現し、芸術性を高める為なんだというとなんでもない思い違いをし続けたのです。薬を使用していることを解らせない>というのが周りの流れだったので、その中でも社会性を保つ努力はしてきたつもりなのです。ぐちゃぐちゃに崩れゆく社会感の中でも前向きに生きてこようとは努力したのです。しかし、それらが私の最も近い存在であった妻、娘、兄弟そして両親を多く傷つけたこと、応援してくれている気持ちを蔑ろにし続けたことに気付くのに薬を使用し始めてから20年程の時間を費やしてしまいました。その20年間の私は常に自分の頭の中で勝手に造り上げた<目標>に向かって走り続けていたのです。

自分を正当化し、執着心は失敗から何をも学ばさず同じ過ちを繰り返させ、薬で造り上げてしまった人生の矛盾を解決する為の活力をまた薬の力に頼ってしまうという悪循環を繰り返し続けました。それでも一度も自分からは薬をやめようとは考えもせず、今回の逮捕に至ってしまいました。

<俺の人生は終わってしまった> 常に妄想を現実化させようとし続けた私の前半の人生はもう終わりにしました。3年半に渡る拘禁生活は私に新たな考え方やあり方の方向性を与えてくれました。日々を地道に過ごすこと、全体の輪の中の一つになる喜び、頑張ったことに対して確実に評価してもらおうこと等、人として私が忘れてしまったことを思い出させてくれたのです。

そして今施設に繋がる事が出来て、また新しい暮らしが始まり4か月以上経ちます。人生については毎日のように考えます。ここの暮らしは博愛と思いやりに満ちています。笑顔やジョークの絶えないこの空間で新しい人間関係を築き、また新しい自分にも気付かされます。人間いくつになっても変わることが出来るんだって信じられるようになる場所です。

もうかつてのように<この先>と焦って考える必要もあまり感じなくなりました。自分が自分の責任を持って確実に日々をこなしていくうちに、きっと自分は変わり始めているんだって感じる日がすぐに来るでしょう。それはここで出会うことの出来た、同じ薬から解放されたいと思っている仲間たちのおかげだと思っています。そしていつかもうすぐ思春期を迎える娘たちに会って、<パパは間違っていたよ>って真っ直ぐに言えるような父親になりたいと思っています。

「薬物依存」 DVD販売中！

アパリが作成したDVDで本人の体験談や、近藤恒夫の話が約30分間収められています。学校での薬物乱用防止教育、行政の職員の研修で利用されています。

1枚 3,000円

FAX : 03-5830-1791

メール: info@apari.jp

ご希望の方はご住所、お名前、電話番号をご記入の上お申込下さい。

藤岡 ニュース！

こんにちは、日本ダルク アウェイクニングハウスの山本です。身も凍るような寒い日が続きますが、皆様はどうお過ごしでしょうか？山の上では連日雪が降り、毎日昇り降りする坂が凍って、施設から出られないことが何日かありました。毎年この寒い時期は何かと問題が発生してきます。水道管の凍結や破裂、雨や雪によつての雨漏りなど。特に雨漏りによる被害は大きく、ひどい所では部屋の天井が落ちてきています。仲間たちと屋上に上がりコーキングや防水テープなどを貼り急場をしのいできましたが、どうしようもない状況が続き昨年の暮れから年始にかけて業者をお願いして建物の約半分のアスファルト防水を行いました。しかし、まだ半分以上は残っており、しかもこの工事を着手するにはかなり高額な金額になります。ここでまた心苦しいお願いですが、この屋上の防水工事をするにあたり、皆様のお力を貸していただきたいのです。施設内のリフォーム等は出来る限り、自分たちでやっておりますが、こればかりは業者を通してする以外ありません。どうかこの工事を早期にするにあたり、ご支援、ご協力お願い申し上げます。

日本ダルク アウェイクニングハウス
ディレクター 山本 大

お振込みいただくときは同封の郵便振込用紙をお使いください。

< 献金をいただいた方 >

小山久須美様、加藤ちえみ様、深野圭介様、水沢直子様、山本忠彦様、安富良和様、設楽あづさ様
亀田牧則様、炭ノ原千代様、匿名の皆様 順不同

< 献品をいただいた方 >

安富良和様、猿渡順一様、梅堀文彦様、山崎久仁子様、美土里地区更生保護女性会の皆様 順不同



屋上の防水シートが破れ、3階4階の仲間の部屋にも雨水がしみ込んでいます。



アウェイクニングハウスの仲間たち。
2月末で入寮者が28名になりました。

日本ダルク 公開シンポジウム 開催！

平成20年6月13日（金）

10時～16時

場所：日暮里サニーホール（ホテル ラングウッド内）

詳細は未定ですので、詳しくは次号でお知らせ致します。

近藤恒夫のプロジェクトとして山梨ダルクを開設いたしました！

山梨ダルクは地域の皆様に支えられ、あらゆる機関との連携を目指して活動しています。

住所：山梨県甲府市伊勢4-21-1 清水ビル1階

電話：055-223-7774

定員：10名

入寮費：16万円(生活保護の方は相談に応じます)



東京本部からのお知らせ！



【平成20年1月～2月に寄付いただいた方】

小山久須美様 伊藤眞様

【平成20年1月～2月に贖罪寄付をいただいた方】

恐喝罪 1件 覚せい剤取締法違反 3件

ありがとうございました！ 大切にに使わせていただきます。

【贖罪寄付とは・・・】刑事被告人が罪をつぐなう一つの方法として、福祉団体や法テラスに寄付することで社会貢献することをいいます。末端の薬物乱用者といえども、薬物を購入することで売人の生計を成り立たせ、薬物の拡散に協力したことになるので、薬物依存からの回復支援をしているアパリやダルクに寄付することは意味があります。贖罪寄付をした事実が判決に影響を与えることも多いです。

アパリの活動をご支援いただきたく献金をお願いします！

【郵便振込】

番号：00160-7-136870

アパリ東京総本部

日本ダルクアウェイクニングハウスとは振込み先が異なりますのでご注意ください。



特定非営利活動法人
アジア太平洋地域アディクション研究所

アパリ東京本部

〒110-0015
東京都台東区東上野6-21-8
電話：03-5830-1790
FAX：03-5830-1791
Email：info@apari.jp

アパリ藤岡研究センター

(運営：日本ダルク アウェイクニングハウス)
〒375-0047
群馬県藤岡市上日野2594番地
電話：0274-28-0311
FAX：0274-28-0313

【入寮条件】

- 1、薬物依存から回復・自立しようとしている本人
- 2、男性(年齢制限なし)

【入寮期間】

基本的に13ヶ月

【入寮費】

月額16万円(初回17万5千円、生活保護の方も可能)



ホームページもご覧ください
<http://www.apari.jp/npo/>

発行者：近藤恒夫
編集責任者：志立玲子
平成20年3月1日発行
定価 1部 100円

<アパリの司法サポート>

アパリの支援

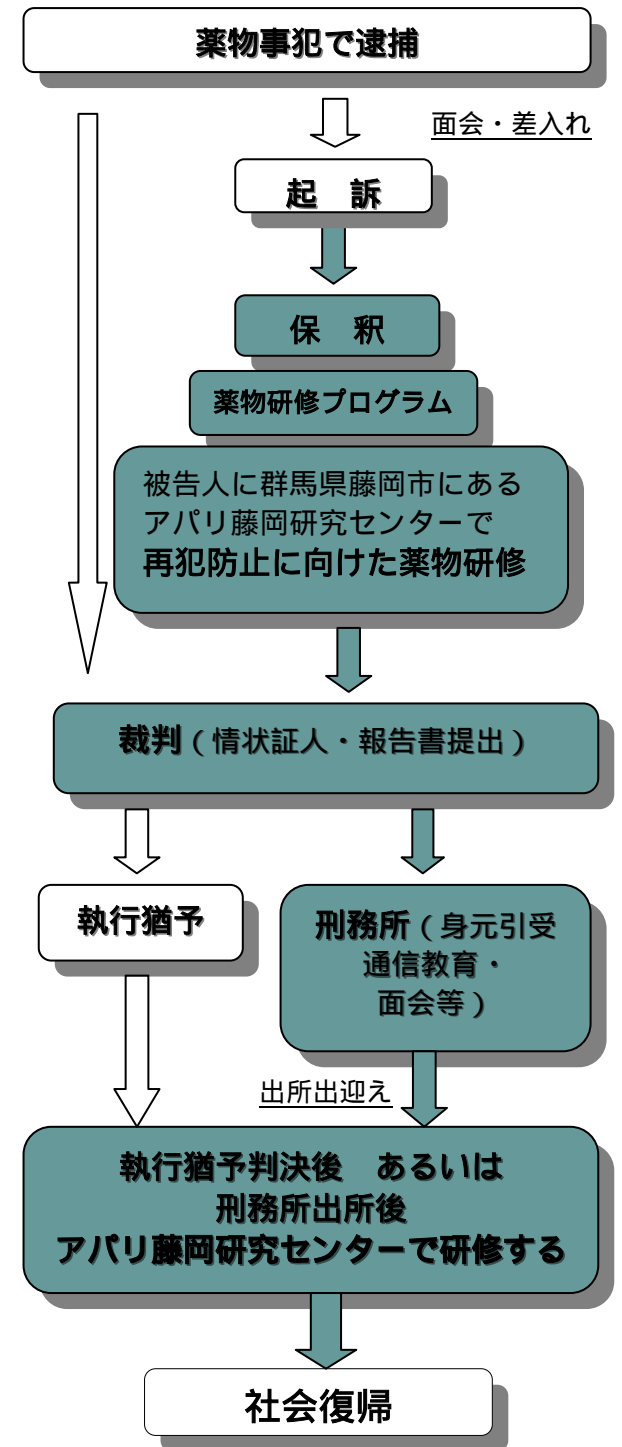
《薬物事犯で逮捕された刑事被告人に対する支援》

薬物犯罪で逮捕されたら刑務所に行くか、再犯防止に向けた何の取り組みもないまま執行猶予の判決をもらって、また薬物のある日常に戻るしかない日本において、**はじめて刑罰以外の再犯防止に向けた取り組みです。**

保釈中の刑事被告人に対する薬物研修プログラム、情状証人出廷、上申書作成、入寮契約、身元引受契約、出所出迎え、法律相談などあらゆるニーズにお応えします。なお、日本における薬物事犯の再犯率は50%ですが、アパリの司法サポートを利用された方の再犯率は**5%以下**です。最近では特に、**受刑中に身元引受契約をし、仮釈放又は満期釈放の時に**出迎えに行き、リハビリ施設に繋げるお手伝いをしています。

[費用：コーディネート料として一律20万円。但し、東京以外の地域は交通・宿泊費の実費が必要です]

【お問合せは東京本部まで】



<家族教室>

「エクステンディッド・ファミリー・クラブ」

日時	ゲストスピーカー	テーマ
5月19日(月)	高橋ヒトシ(日本ダルク) プーキー(NAメンバー)	座談会「ダルクを卒業してから」
7月7日(月)	本人とその家族	「家族の側から見た支援」

ゲストスピーカーによる体験談は2ヶ月に1度になりました。

【対象】薬物依存症などの諸問題を抱える家族、知人、友人、援助職従事者

【日時】第1・第3月曜日18:30~20:30

【場所】アパリ・クリニック上野2階(場所を借りています)

【参加費】3,000円(ご夫婦などでの参加は2名で4,000円になります)

【内容】カウンセラーの町田がファシリテーターとなり家族との分かち合いを行います。法律問題については事務局長の尾田が担当します。【お問合せは東京本部まで】

<個別相談・カウンセリング>

【対象】薬物依存症などの諸問題を抱える家族・本人など。

【費用】45分 9,000円 【場所】アパリ東京本部 501号室

【カウンセラー】町田 政明 [元神奈川県立せりがや病院勤務、ホープヒル代表、寿アルク理事] 【予約】アパリ東京本部03-5830-1790 【注意事項】当日のキャンセルや変更の場合は全額いただきます。遅れていらした場合は時間が短くなりますのでご了承ください。